

第1回稲敷市総合計画等審議会での主なご意見

①稲敷の住みやすさについて

<稲敷で暮らす魅力について>

- ・所得が少なくても生きやすい。
- ・周りのお節介のようなところが気に入っている。ざっくりいうと年寄りになればなるほど見てほし
いし、若い人は余計な事を言われたくないのだと思う。
- ・この環境に慣れたのは、お祭りの存在が大きい。
- ・田園風景や星など景観が良く、良い場所だと感じている。
- ・農業が根付いたまちだと感じる。
- ・毎日ウォーキングをしているが、人っ子一人おらず、空も田んぼも空気も自分一人のものという感じ
がしてすごく贅沢に思う。

<稲敷の住みにくさについて>

- ・稲敷が住みやすい人は38.3%、稲敷市に住み続けたい人は63.3%であるが、これは地方の自然豊かな
まちとしては極めて低い数字である。
- ・何をするにも見られているような気がして監視されているようで生きづらいという声がある。
- ・公共交通機関が不便。龍ヶ崎やひたち野うしくにバスを走らせ、高校生が通学できるようにするだけ
でも大分変わると思う。
- ・独居老人も含め老人世帯がすごく増えている。
- ・仕事は稲敷にあるのに家は他所にある人が結構多い。
- ・茨城県内は3つや4つの町が集まっているところが多いが、いまだにそれぞれがばらばらというこ
とが多い。

②子どもの遊び場、子育てについて

- ・子どもたちが遊ぶ場所や公園がなく、田舎なのに走り回る環境がないことに不満を感じている。た
だ、慣れ親しんだ土地であり、子どもたちも現状に慣れているため、離れることに葛藤している。
- ・東京は学校を遊び場として開放しているが、稲敷はなぜそれをやっていないのか。
- ・出生率1.03は東京23区並みに非常に低い。実際に出産した人が感じている問題を取り上げるだ
けでも状況は変わると思う。

③稲敷の産業の強みについて

- ・稲敷は人口は減っているが、工業出荷額は増加しており生産性も向上、商業の売上も下がっていな
い。過疎地域に指定されているが、いわゆるみんながイメージする過疎地域ではない。

④これからの稲敷市総合計画の将来像について

- ・将来像には、年寄りのはのんびりできて、若い人はわくわくするということが入ると良いと思う。
- ・この町は、氷水と熱湯が一緒になってぬるま湯になっているというような、良いところと悪いところ
が非常にはっきりしている町だと思う。
- ・市民参加への満足度が非常に低い。現在の基本理念で「ひとりひとりが主役のまちづくり」と掲げて
いるのに、何かが不足している。理念と現状が矛盾していると思う。
- ・中学生、高校生、大学生を巻き込むと良いと思う。